【第5回】松原地区町会対抗　マレットゴルフ　ソフトバレーボール　新卓球

ニュースポーツ大会 6/29 Sun.

総合優勝 1町会 19p

優勝した第1町会

第1町会 大久保町会長の選手宣誓

準優勝 7町会 18p

接戦の連続!!

第3位 3町会 14p

息の合ったダブルス

天気に恵まれ☀

私が卓球を始めてちょうど3年になります。きっかけはニュースポーツ大会に出させてもらったことです。60歳も後半、何か体を動かすことはないかと考えていた時でした。

卓球は昔少し遊んだ程度でしたので、見るのと実際にやるのとでは大きな差がありました。何にでも基本がありますが、卓球でもこの基本をマスターしない限り、自己流ではいくら練習しても上達しません。卓球クラブの皆さんに指導していただいて、やっと自己流から変わってきたところです。まだまだクラブの皆さんのようにはいきませんが、少しでも向上心を持って練習に取り組みたいと思っています。

今年の大会も終わりました。来年を目標に、年齢に関係なく、誰でも楽しめて、健康増進に役立つスポーツの一つとして、皆さんも卓球を始めてみませんか。おすすめのスポーツだと思います。

（第1町会　中野三儀）

ふれあいのまち
松原かわら版
世帯数　1,136戸
人　口　2,927人
（平成26.7.1現在）

第2回 ～省エネ・エコの会～ 松原地区食器リサイクルを実施しました

6月1日（日）
松原地区公民館

昨年度と比較して搬入者数と回収総量はともに減少しました。2回目の実施ということで家庭の不要食器が整理されつつあり、事業が定着してきていることが理由かと思われます。今後は高齢者の独り暮らし世帯への回収支援や、まだ回収へ出したことのない家庭への周知方法の工夫をしていくことが必要との意見が出ました。

回収結果

	搬入者数（人）	回収総量（kg）
第1回	81	1,860.3
第2回	49	1,007.5
比較増減	-32	-852.8

ようこそ松原へ

今回は第3町会にお住まいの猿田さんご一家にお話を伺いました。

猿田さんご一家

◇いつからこちらにお住まいですか?以前はどちらにお住まいでしたか?

――平成25年1月に家を新築し、1年半ほどになりますが、妻の実家が松原にあり同居していたので、今年で7年目になります。以前は安曇野市に住んでいました。

◇なぜ松原に住むことを選んだのですか?

――同居している時期にナイターソフトに誘っていただき、松原の皆さんの温かさを知っていくうちに、家を建てるならぜひ松原に建てたいと思ったからです。娘が2人いるので、実家が近いこと、地区の行事がたくさんあることも大きな理由です。

◇実際に住んでみてどんな感想を持たれましたか?

――公園が多く、子供がたくさん遊んでいるので明るくて楽しく、親としても安心です。毎日横断歩道で子供たちを見守ってくださる方や、子供を可愛がってくださる方が多く、優しい街だと日々感じています。また、公民館のイベントや町会の行事も盛大で、楽しませていただいています。地域の皆さんとの交流を通して、子供たちが思いやり溢れる人間に育ってほしいと願っています。

◇松原地区がどのようになっていったらいいと思いますか?

――中央公園によく遊びに行くのですが、花壇も花でいっぱいで親も楽しいです。ただ、時計台が開いたところを子どもたちとぜひ見てみたいのでお願いします。地域の子供たちが明るく楽しく暮らせるように、私たちも微力ながら頑張っていきたいと思います。

性同一性障がい講演会

～性同一性障がいを理解し、共に生きる～

《講師》長岡春奈さん（第3町会）

6月14日に松原地区公民館で第3町会の長岡春奈さんによる性同一性障がいについての講演会が行われ、約40名の方が参加されました。参加者の方から感想をいただいています。

「私の心に響いた一人の証」

その日、講演会で話されている春奈さんは私の目にとても素敵に輝いて見えました。やっと本来の自分を取り戻し、女性として真摯に生きていこうという思いに溢れていました。

ご自身の赤裸々な体験を臆する事なく話され、この障がいの持つ深刻な問題を改めて認識しました。「私たちの話をただ聞いてくれるだけでいい。それだけでもどれほど救われるか。」と話された春奈さん。性同一性障がい者が抱える心の叫びに少しでも触れる事のできる自分でありたいと深く考えさせられる講演会でした。

（第4町会　川崎健史）

コラム　北の旅人

真田丸が活躍した頃、小さな村の中には城主の無理を嫌ったりして他の藩に逃げる者があったそうです。全村が一夜のうちに新しい地に移り、鎮守が造られて村のまとまりも続いたといいます。東日本大震災で全国に散って文通も絶えていた人達が、鎮守の再建を機に元の村に集い、将来の再興を誓ったと聞きます。

松原地区は住宅地として開発され、発展してきました。将来の高齢化は避けられませんが、人口も世帯数もわずかながら増えています。しかし、市や県内外の各地から集まった住民が、朝自宅から離れたところに勤めに行って、夜家に戻ってくるというと、地域とのつながりが薄れがちになります。

新しい地区の絆のために鎮守を造るというのは無理でしょう。かつて就学前の子供から親、祖父母まで参加して賑やかに行われた地域のお祭りとか運動会、今はそんな時代でもなさそうです。

地域開発で発展を、という内向きの発想ではなく、外向きに発信をして、逆に内のまとまりをということはできないでしょうか。驚きの百景の一つ二つありませんか、驚きのマイスターがいませんか。松原の空洞化を防ぐ、将来について検討を重ねる時間はまだあると思います。

なつを

金井哲

夏の月水面(みなも)にゆらぎ夜(よ)は深む

ほろほろと山鳩鳴くや梅雨晴間(つゆはれま)

山鳥のしきりに鳴くや五月晴(さつきばれ)